

別紙

S S T及びT Tの効果について

ソーシャルスキルトレーニング（S S T）、ペアレント・トレーニング（P T）、及びティーチャートレーニング（T T）は応用行動分析の考え方を基盤としており、効果も実証され、現在も発展し続けている支援方法です。

まず、S S Tは子どもたちに直接行う支援方法であり、現代において自然に身につけることが難しくなったソーシャルスキル（社会生活を送る上で対人関係を円滑に運ぶための技術）を意図的、計画的に学習します。現在では、対象児童のみを取り出しておこなうS S Tだけでなく、学校の授業や保育園、幼稚園のクラス全体でおこなうS S Tも増えてきており、より多くの効果が実証されています。

また、これまでのS S T研究において、他者への妨害行動や、引っ込み思案行動が減少したり、他者を好意的に認知するようになったことが報告されています。S S Tを通して、子どもたちは他者と関わることの楽しさや、他者を大切にすることを学び、社会性を身につけ、成功体験を積み重ねることで、自分に自信を持つことができるようになります。

一方、T Tは保護者を対象としたP Tを改訂したもので、幼・小・中学校教諭、保育士、そして療育担当者等（以下、「支援者」という。）を対象に、子どもへの関わり方や配慮の方法を学ぶ間接支援です。子どもの具体的な行動を具体的に強化する方法について学び、子どもの行動問題や支援者との関係の変化を目指します。実際に子どもへの対応の仕方が変化することはもちろん、行動特性の理解や支援者の自信の回復、そして子ども自身の自己効力感を育てていくことにもつながっており、支援者が変化することで子ども自身の変化を促していくこととなります。